

「俺とMITSUUKIの宇宙日記」

ダイアリイ

プロローグ

風見鶏

物語のあらすじ

西暦2712年、人類が宇宙に進出して数世紀。恒星間航行も一般的となり、人類は半径数百光年の宇宙で繁栄している。遺伝子を改良する方法が確立されたため、今では人間の生体機能は大きく拡張され、様々な電子機器はもちろん、人の間でも自由に情報の交換や共有が出来るようになった。これにより人の生活は劇的に変化した。だが、人の本質たる人格にはいまだ手つかずのままである。神（と呼ぶべき者）は人がその領域に立ち入る事を本質的に拒んでい

るのかもしれない。

ともあれ、この時代では、宇宙を舞台に活躍する人材の育成が重要な課題となっている。とりわけ、宇宙船の運航の要となる様々な技術や能力を持つ人材は不可欠だ。そのために設立されたのがスペースアカデミーだ。地球近傍に位置する巨大宇宙都市に本拠を構えるアカデミーは、一般の高校教育から大学そして大学院をあわせた一貫教育機関である。最初の3年は基礎課程と呼ばれ、高校教育を兼ねる事から、附属高とも呼ばれている。

この物語は、附属高に入学した「俺」こと中井ケンジと、やがて強い絆で結ばれるパートナーとなっていく星野美月との出会いのエピソードから始まる。入学式前、静止軌道ステーション行きシャトルに乗り合わせた二人。だが、突然の太陽嵐でシャトルが遭難し、二人は様々な危機に直面する。どうにか協力してそれを乗り越えていく二人。その中で二人は次第に惹かれ合っていくのだが・・・そして、入学式、そこで出会う新しい仲間たち。さらに一年が過ぎ、新学期を前に、新たな物語を生み出していくチームが結成される。

これは、そこから始まる新たな冒険の序章だ。付け加えるなら、これは未来宇宙を舞台としたSFであると同時に、ちよつとドタバタな学園ラブコメでもある。なぜなら、人の本質は今も昔も、そして未来でも、まったく変わらないのだから。